



# 2020年12月期第2四半期 決算説明資料

株式会社RS Technologies

2020年8月7日



東証1部  
3445

# 目次

## 会社概要

P.3

会社概要  
沿革  
現在のRS Technologies  
ウェーハ再生事業の地域別出荷数構成比

## 2020年12月期第2四半期 決算概要

P.8

決算概要（累計）  
セグメント及び会社別動向（累計）  
営業利益増減要因分析（累計）  
決算概要（単期）  
セグメント及び会社別動向（単期）  
セグメント動向 四半期業績グラフ  
会社別動向 四半期業績グラフ  
貸借対照表及びキャッシュフロー  
2020年12月期 決算見通し

## 中期経営計画（20年～23年）の見通し

P.18

中期経営計画（4か年）の概要  
設備投資計画：ウェーハ再生事業  
設備投資計画：プライムウェーハ事業  
中国における投資計画の変更  
進捗中の中国投資計画（スケジュール）  
12インチウェーハ事業スキーム  
ウェーハ再生事業の新規需要  
再生ウェーハの需要見通し  
RS Technologiesの目指す世界

## Appendix

P.28

代表取締役 方永義の強み  
ウェーハ再生ビジネス(1) (2)  
プライムウェーハビジネスへの進出  
中国における当社合併相手について  
山東省徳州市と提携  
中国事業への出資スキーム  
業績推移  
主要財務諸表  
セグメント別 業績推移

# 1. 会社概要

---

# 会社概要

- ウェーハ再生で世界市場シェア3割のトップ企業。
- 中国中央政府直属企業との合併事業でプライムウェーハ事業にも本格進出。
- M&Aによりシナジーの期待できる周辺事業領域にも事業を拡大。

社名	株式会社RS Technologies
設立	2010年12月10日
経営理念	「地球環境を大切にし、世界の人々に信頼され、常に創造し挑戦する。」
事業内容	電子材料、電子機器部品、通信機器部品材料の製造、加工、再生、販売。太陽光発電事業。半導体関連設備の買取及び販売事業。半導体材料・パーツの販売。半導体シリコンウェーハ製造の技術コンサルティング。
本社所在地	東京都品川区大井1-47-1 NTビル 12F
三本木工場	宮城県大崎市三本木音無字山崎26-2
資本金	5,432百万円（2020年6月末時点）
代表取締役	方 永義
主な連結子会社	艾爾斯半導体股份有限公司（台湾） 資本金 NT \$300 million 出資比率 100%
	北京有研RS半導体科技有限公司（北京） 登録資本 US \$138 million 出資比率 45% ※
	有研半導体材料有限公司（北京） 登録資本 8億人民元 出資比率 45% ※
	株式会社ユニオンエレクトロニクスソリューション 資本金 27百万円 出資比率 100%
	山東有研半導体材料有限公司（山東省徳州市） 登録資本 15億人民元 出資比率 36% ※
	株式会社DG Technologies 資本金 100百万円 出資比率 100%

※1 中国事業における、連結対象となる出資スキームは、北京有研RS半導体科技有限公司を親会社として、有研半導体材料有限公司を子会社、山東有研半導体材料有限公司を孫会社としており、出資が一部重複しております。詳細は、P35「中国事業への出資スキーム」をご参照ください。

# 沿革

- 2010年 事業開始。ウェーハ再生事業で世界トップ。
- 2018年 中国の大手プライムウェーハメーカーを連結子会社化、ウェーハ総合メーカーに。

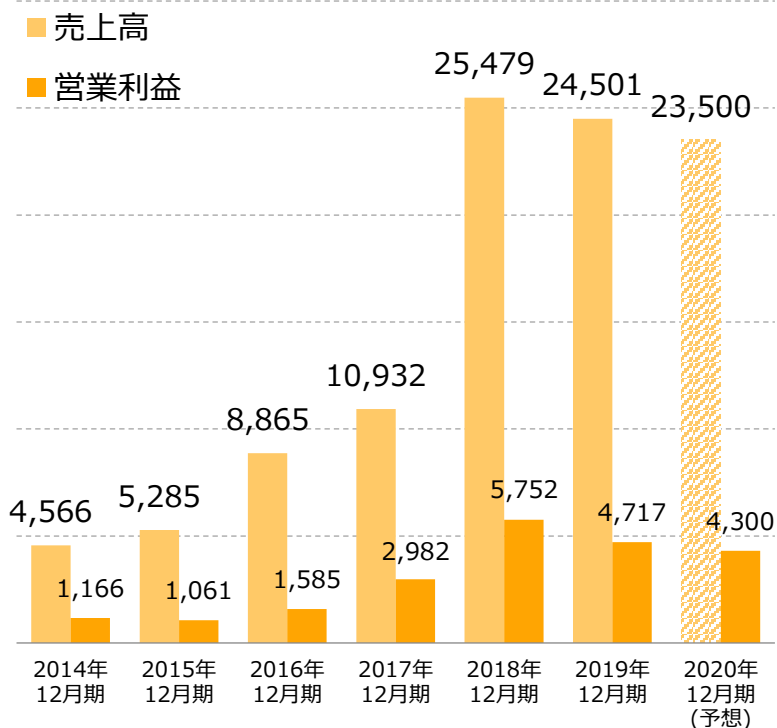
2010年（平成22年）12月	ウェーハ再生事業を主たる事業として株式会社RS Technologiesを設立
2011年（平成23年）1月	三本木工場において操業開始
2011年（平成23年）11月	三本木工場がUKASより「ISO9001:2008」（品質マネジメントシステム）認証取得
2013年（平成25年）10月	三本木工場においてソーラー事業を開始
2014年（平成26年）2月	台湾に子会社として艾爾斯半導體股份有限公司（現・連結子会社）を設立
2015年（平成27年）3月	東京証券取引所マザーズに株式を上場
2015年（平成27年）6月	最先端設備（18インチウェーハ再生可能）を導入した三本木工場・第8工場が竣工
2015年（平成27年）12月	艾爾斯半導體股份有限公司（現・連結子会社）の台南工場が竣工
2016年（平成28年）9月	東京証券取引所市場第一部（東証一部）へ市場変更
2017年（平成29年）12月	有研科技集团有限公司（GRINM）及び福建倉元投資有限公司と三社間で合併契約を締結
2018年（平成30年）1月	北京有研RS半導体科技有限公司（BGRS）を設立、中国プライムウェーハ製造メーカーである有研半導体材料有限公司（GRITEK）を連結子会社化
2018年（平成30年）5月	株式会社ユニオンエレクトロニクスソリューションの100%株式を取得（日立パワーデバイスの特約店）
2018年（平成30年）8月	山東有研半導体材料有限公司（GRITEKの連結子会社、山東GRITEK）を設立
2019年（平成31年）1月	株式会社DG Technologiesの100%株式を取得
2019年（令和元年）12月	GRINM、德州滙達半導体股權投資基金パートナー企業及び山東省徳州市政府と四者間で合併契約を締結
2020年（令和2年）2月	上海悠年半导体有限公司（上海ユニオン）を設立
2020年（令和2年）3月	山東有研RS半導体材料有限公司（SGRS）並びに有研艾唯特（北京）科技有限公司（北京IVT）を設立

# 現在のRS Technologies

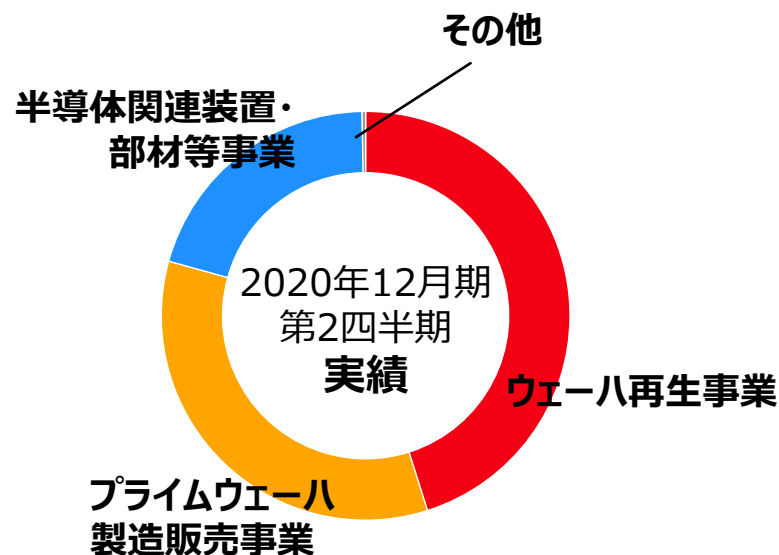
- ウェーハ再生事業+プライムウェーハ事業の総合ウェーハメーカー。
- 半導体関連装置・部材等事業及びソーラー事業へも事業領域を拡大。
- ウェーハ再生事業はグローバルシェアNo1、プライムウェーハ事業では主に中国国内向けに事業を展開。

## 連結売上高および営業利益

(百万円)

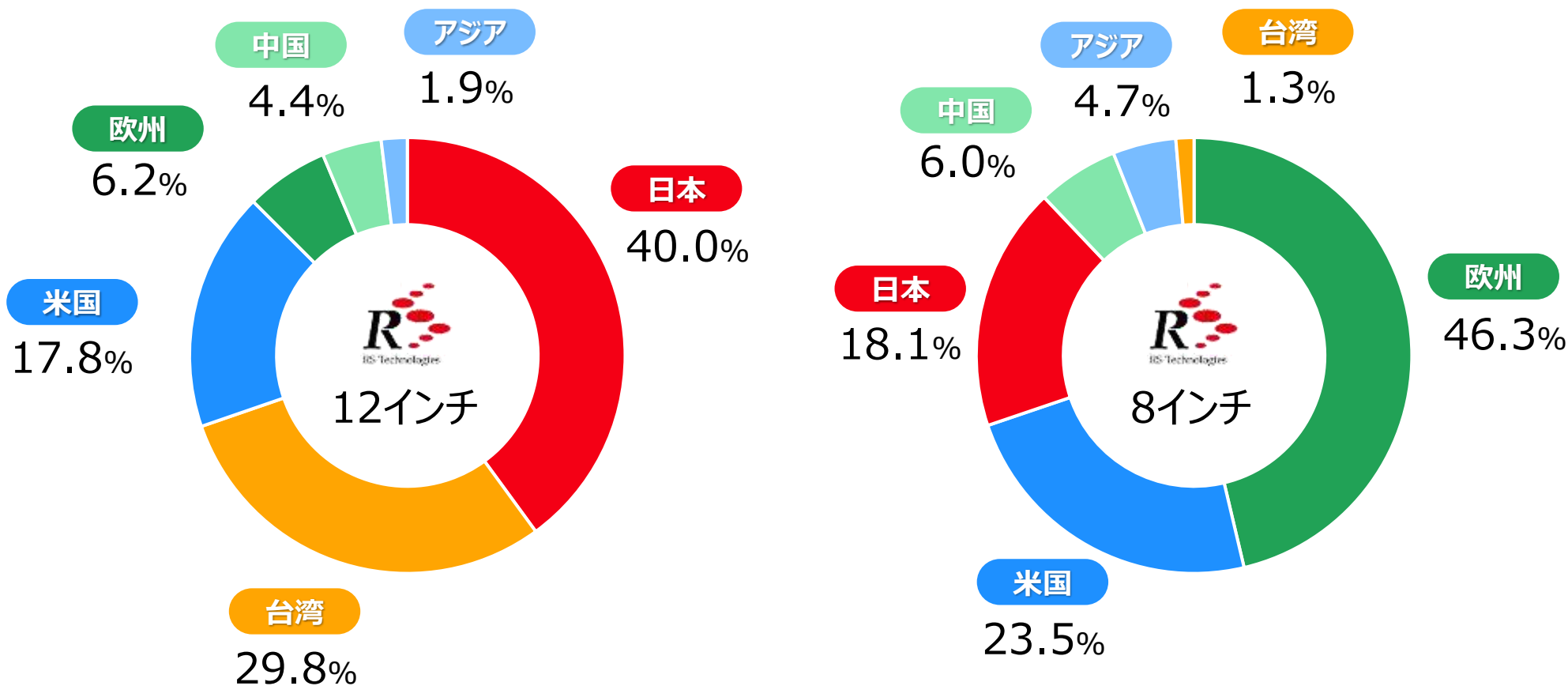


## セグメント別売上高



# ウェーハ再生事業の地域別出荷数構成比

- 日本、台湾、欧米を中心に、世界の主要な半導体メーカーを顧客としている。
- 2019年度に中国での生産拠点新設投資を決定、今後の需要拡大に対応。



注：RST調べ、枚数ベース(2018年度)

## 2. 2020年12月期第2四半期 決算概要

---



# 2020年12月期第2四半期（累計） 決算概況

- 売上高は、ウェーハ再生事業における生産能力の増加、半導体関連設備・部材等事業の売上増加により、前期比増収。
- 営業利益は、ウェーハ再生事業は堅調であったものの、プライムウェーハ事業の影響により、前期比減益。
- 新型コロナウイルスの影響は、当初予想に比べて軽微。

(百万円)	2019年12月期 第2四半期	2020年12月期 第2四半期 当初予算	2020年12月期 第2四半期	前期比	前期比 増減率	当初 予算比	2020年12月期 修正後予算	通期 進捗率 (修正後予算比)
売上高	12,515	11,200	12,653	+138	+1.1%	+1,453	23,500	53.8%
営業利益	2,755	1,400	2,580	△175	△6.4%	+1,180	4,300	60.0%
営業利益率	22.0%	12.5%	20.4%	△1.6pt		+7.9pt	18.3%	
経常利益	2,920	1,400	2,898	△22	△0.8%	+1,498	4,800	60.4%
経常利益率	23.3%	12.5%	22.9%	△0.4pt		+10.4pt	20.4%	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,723	1,000	1,686	△37	△2.1%	+686	2,800	60.2%
一株当たり 当期純利益	134.54円	77.95円	131.27円	△3.27円	△2.4%	+53.32円	216.74円	

※2020年12月期第2四半期当初予算は2020年2月13日、2020年12月期修正後予算は2020年7月29日に公表した数値となっております。

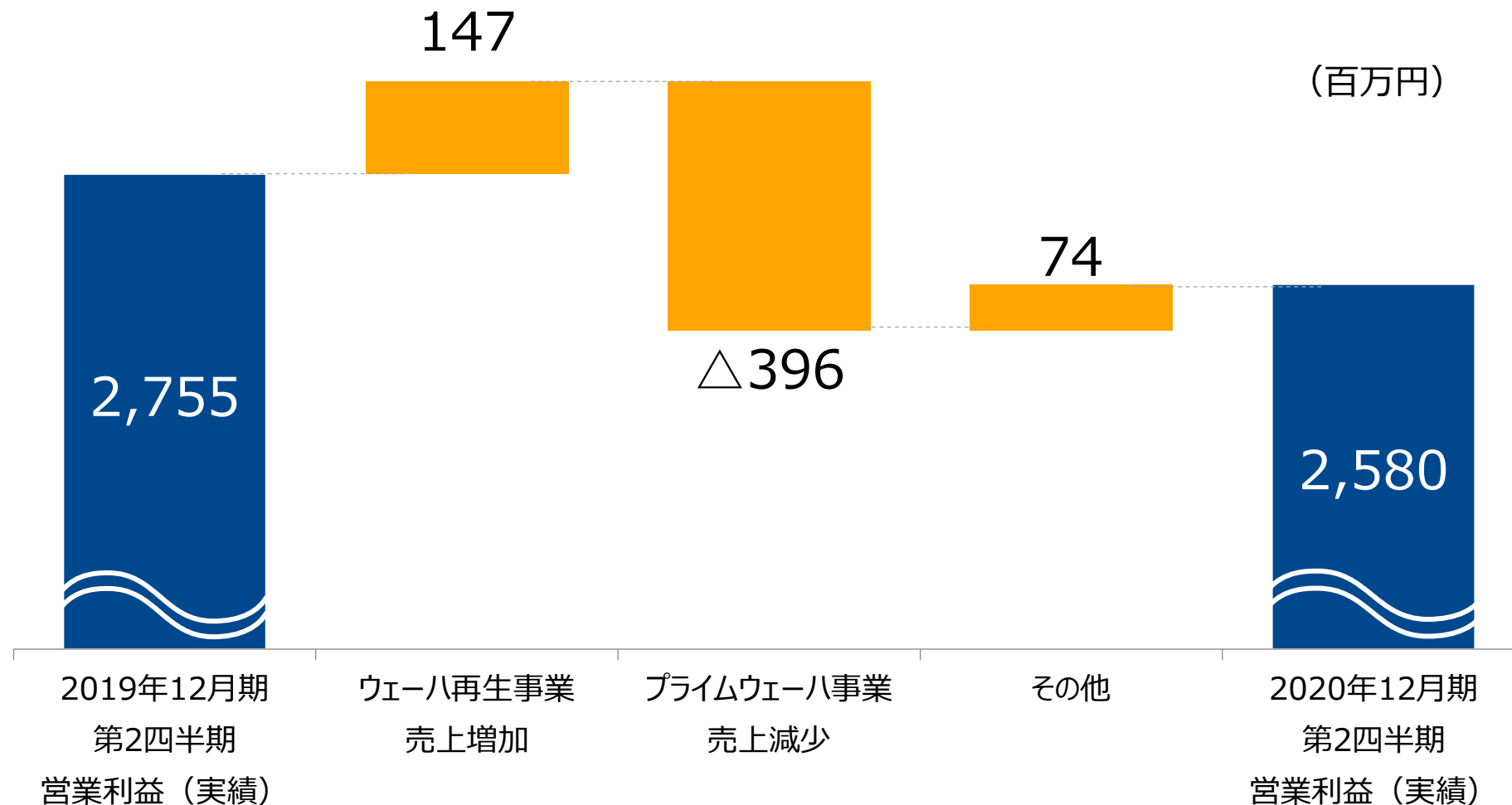
- ウェーハ再生事業は、顧客の旺盛な需要を背景に、増加した生産能力が寄与、前期比増収・増益を確保。
- プライムウェーハ事業は、世界的な景気減速の影響により、前期比減収減益。
- 半導体関連装置・部材等事業は、営業力強化等の施策による販売増加で前期比増収増益。

セグメント別 (百万円)	ウェーハ再生事業		プライムウェーハ 製造販売事業		半導体関連装置・ 部材等事業		その他、調整額		連結合計	
		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比
売上高	5,709	+8.0%	4,775	△16.8%	2,582	+55.4%	△413	-	12,653	+1.1%
営業利益	2,072	+7.6%	872	△31.2%	94	+20.5%	△458	-	2,580	△6.4%
営業利益率	36.3	△0.1Pt	18.3	△3.8Pt	3.6	△1.1Pt	-	-	20.4	△1.6Pt

会社別 (百万円)	RS		台湾子会社		北京子会社		その他子会社		連結合計	
		前期比		前期比		前期比	連結消去	前期比		前期比
売上高	5,222	+17.1%	2,375	+41.9%	4,762	△17.0%	294	-	12,653	+1.1%
営業利益	982	+7.8%	767	+37.2%	920	△31.4%	△89	-	2,580	△6.4%
営業利益率	18.8	△1.6Pt	32.3	△1.1Pt	19.3	△4.1Pt	-	-	20.4	△1.6Pt

# 2020年12月期第2四半期（累計） 営業利益増減要因分析

- 営業利益は、増加した生産能力の寄与によりウェーハ再生事業が増益となるも、世界的な景気減速の影響を受けたプライムウェーハ事業の売上減少により、前期比減益。



増減要因

# 2020年12月期第2四半期（単期）決算概況

- 売上高は、ウェーハ再生事業の増加した生産能力の寄与、半導体関連設備・部材等事業の売上増加により、前年同期比増収。
- 営業利益は、前年同期比増益。

(百万円)	2019年12月期 第2四半期	2020年12月期 第2四半期	前年同期比	差額
売上高	6,203	6,470	+4.3%	+267
営業利益	1,340	1,407	+5.0%	+67
営業利益率	21.6%	21.7%		+0.1pt
経常利益	1,485	1,490	+0.3%	+5
経常利益率	23.9%	23.0%		△0.9pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	841	860	+2.3%	+19
一株当たり当期純利益	70.53円	66.83円	△5.2%	△3.70円

# 2020年12月期第2四半期（単期）セグメント及び会社別動向

- ウェーハ再生事業は、設備投資による生産能力の増加により、前年同期比増収増益。
- プライムウェーハ事業は、世界的な景気減速の影響を受け、前年同期比減収。営業利益は、製品収率アップ及び原材料のコストダウンによる原価改善により、前年同期比増益。
- 半導体関連装置・部材等事業は、営業力強化等の施策による販売増加で前年同期比増収。営業利益は、子会社の先行投資による諸費用増加により、前年同期比減益。

セグメント別 (百万円)	ウェーハ事業		プライムウェーハ 製造販売事業		半導体関連装置・ 部材等事業		その他、調整額		連結合計	
		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比
売上高	2,968	+7.5%	2,517	△6.4%	1,212	+43.3%	△227	-	6,470	+4.3%
営業利益	1,080	+6.2%	572	+6.5%	△18	△143.9%	△227	-	1,407	+5.0%
営業利益率	36.4	△0.4pt	22.7	2.8pt	△1.5	△6.3pt	-	-	21.7	+0.1pt

会社別 (百万円)	RS		台湾子会社		北京子会社		その他子会社		連結合計	
		前期比		前期比		前期比	連結消去	前期比		前期比
売上高	2,705	+19.8%	1,240	+27.7%	2,505	△6.9%	20	-	6,470	+4.3%
営業利益	512	+2.8%	390	+20.7%	595	+4.2%	△90	-	1,407	+5.0%
営業利益率	18.9	△3.1pt	31.5	△1.8pt	23.8	+2.5pt	-	-	21.7	+0.1pt

# 2020年12月期第2四半期 セグメント動向 四半期実績グラフ

- ウェーハ再生事業は、昨年度の設備投資による増産及び顧客の旺盛な需要により、堅調に推移。
- プライムウェーハ事業は、足元、顧客の需要増加による売上増加により前四半期比増収増益。
- 半導体関連装置・部材等事業は、コロナウイルス影響により子会社の売上が落ちたことから前四半期比減収減益。

## ウェーハ再生事業

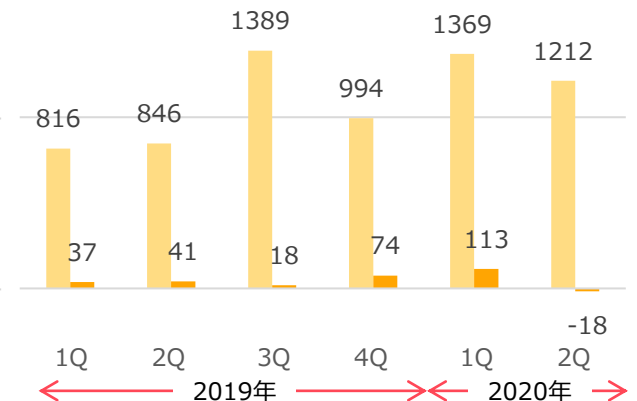
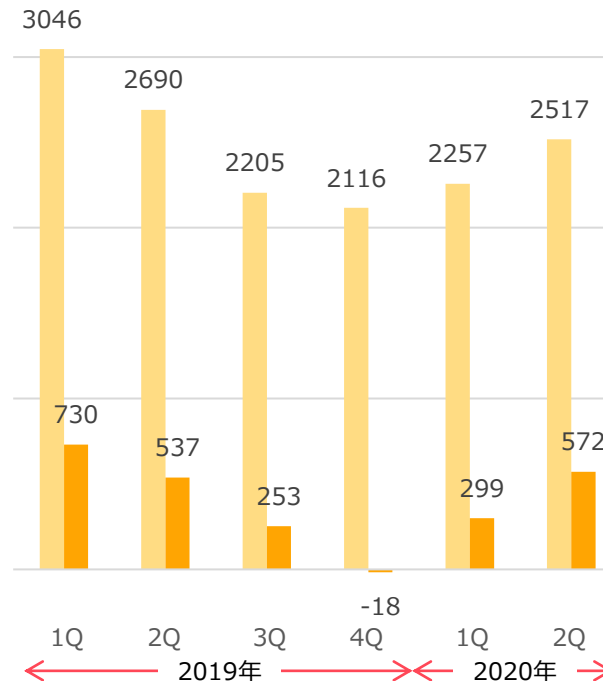
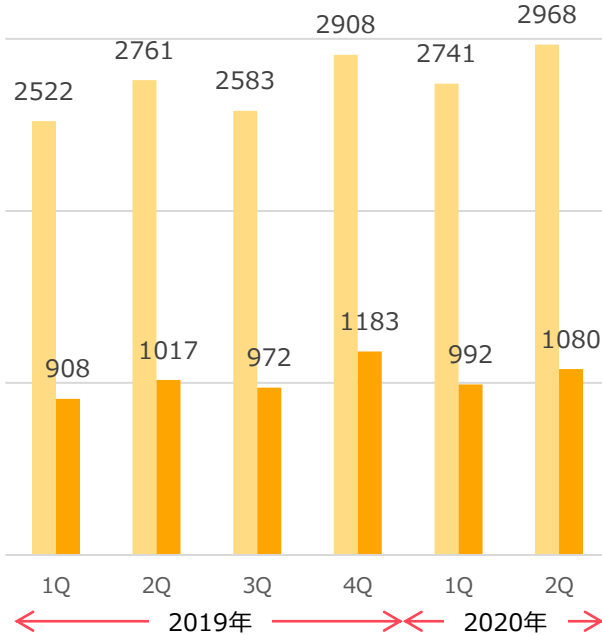
## プライムウェーハ事業

## 半導体関連装置・部材等

■ 売上高

■ 営業利益

(百万円)

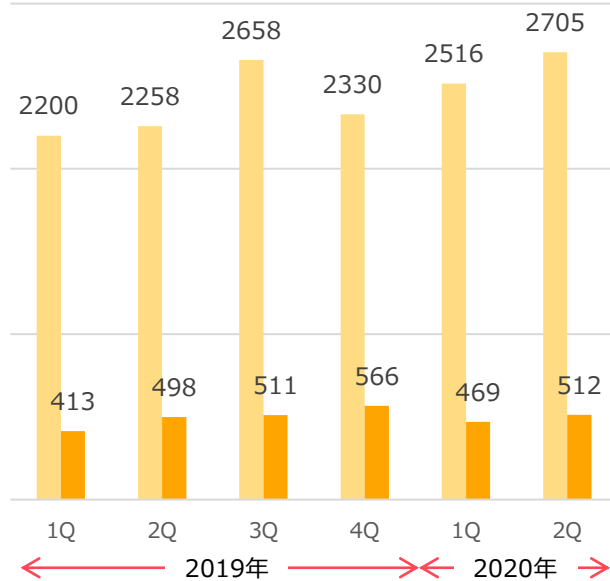


# 2020年12月期第2四半期 会社別動向 四半期実績グラフ

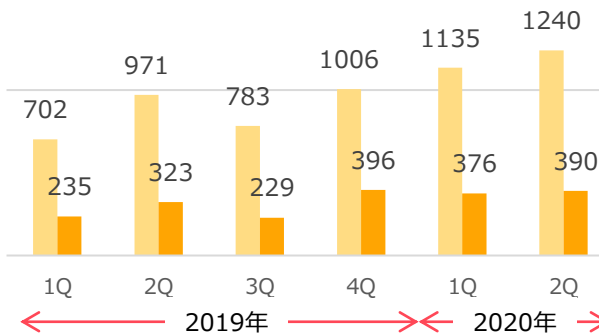
- RS及び台湾子会社は、昨年度の設備投資による増産及び顧客の旺盛な需要が寄与し、前四半期比で増収増益。
- 北京子会社も前四半期比増収増益。

## RS

■ 売上高  
■ 営業利益

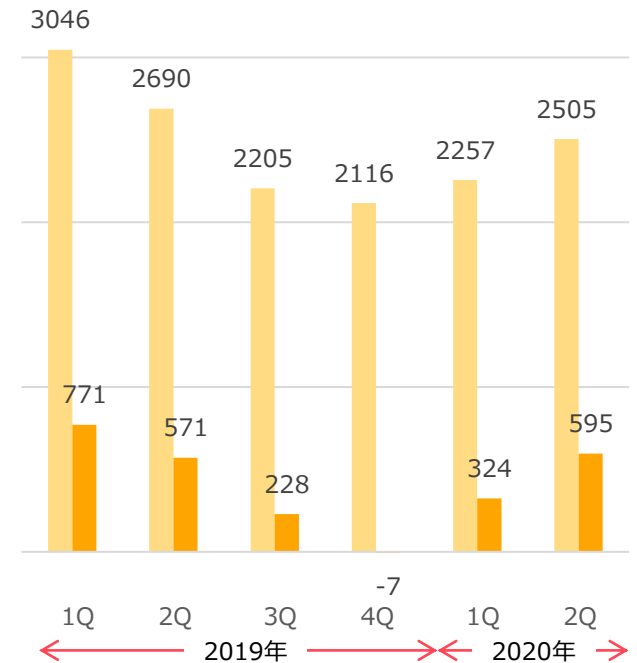


## 台湾子会社



## 北京子会社

(百万円)



# 貸借対照表及びキャッシュフロー

- 流動資産は、純利益等を反映し現金及び預金が増加したことから、前年比+15億円。
- 固定資産は、徳州市に建設中の新工場等設備への投資により、前年比+47億円。

## 連結貸借対照表

(百万円)	2019年12月期	2020年12月期 第2四半期
<b>資産の部</b>		
流動資産	32,760	34,267
現金及び預金	22,156	22,949
受取手形及び売掛金	6,047	6,218
商品及び製品	1,713	1,933
固定資産	15,873	20,614
有形固定資産	14,635	19,481
無形固定資産	732	627
投資その他資産	506	505
<b>資産合計</b>	<b>48,634</b>	<b>54,882</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	7,252	10,678
支払手形及び買掛金	1,614	1,722
有利子負債	1,730	1,587
固定負債	5,400	6,381
長期借入金	2,232	2,882
<b>負債合計</b>	<b>12,652</b>	<b>17,059</b>
純資産	35,981	37,822
<b>負債・純資産合計</b>	<b>48,634</b>	<b>54,882</b>

## キャッシュ・フロー

(百万円)	2019年 12月期	2020年 12月期 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,015	4,848
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,107	△3,560
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,206	△708
現金及び現金同等物に係る換算差額	△404	△425
現金及び現金同等物の増減額	6,710	153
現金及び現金同等物の期首残高	14,652	21,363
現金及び現金同等物の期末残高	21,363	21,517



# 2020年12月期 決算見直し

- 2020年下期は、新型コロナウイルス感染等の再燃による影響が懸念されるものの、2020年上期業績の寄与により、通期見直しを上方修正。

(百万円)	2019年12月期	2020年12月期	
	通期	通期	
	実績	従来予想	今回予想
売上高	24,501	22,700	23,500
営業利益	4,717	3,200	4,300
営業利益率	19.3%	14.1%	18.3%
経常利益	5,416	3,400	4,800
経常利益率	22.1%	15.0%	20.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,035	2,400	2,800
一株当たり当期純利益	236.98円	187.07円	216.74円
年間配当金	15円	15円	15円

※2020年12月期決算見直し(従来予想)は2020年2月13日、2020年12月期決算見直し(今回予想)は2020年7月29日に公表した数値となっております。

## 3. 中期経営計画の見通し

---

# 中期経営計画（4か年）の概要

- ウェーハ再生事業では、従来のボトルネック投資に加えて生産拠点の新設投資を実行し、需要拡大に対応。
- プライムウェーハ事業では、8インチプライムウェーハ新工場が2020年秋より順次稼働開始の予定。並行して12インチプライムウェーハ量産化のための研究開発を進行中。
- 2023年には売上高316億円、営業利益68億円、当期純利益40億円を目指す。

	2019年 12月期	2020年 12月期	2021年 12月期	2022年 12月期	2023年 12月期
	実績	修正後計画※	計画※※	計画※※	計画※※
売上高	24,501	23,500	27,000	29,800	31,600
営業利益	4,717	4,300	4,800	6,100	6,800
営業利益率	19.3%	18.3%	17.8%	20.5%	21.5%
経常利益	5,416	4,800	5,000	6,400	6,900
経常利益率	22.1%	20.4%	18.5%	21.5%	21.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,035	2,800	3,000	3,600	4,000
一株当たり 当期純利益	236.98	216.74	233.84	280.61	311.79

※2020年12月期の修正後計画は、2020年7月29日に公表した数値となっております。

※※2021年12月期以降の計画は、2020年2月13日に公表した数値となっております。

# 設備投資計画：ウェーハ再生事業

- 世界の半導体需要が拡大する中、日本・台湾への設備投資に加え、中国に生産拠点の新設投資を実行中。

## 日本

総投資額： 14億円

- 12インチ再生ウェーハの生産能力拡充
- 2020～2022年：14億円(3万枚)

### 12インチ再生ウェーハ生産能力（月産）

2019年 → 2021年 → 2022年  
**25万枚** → **27万枚** → **28万枚**

2020年度	2021年度	2022年度
2億円	10億円	2億円

## 台湾

総投資額： 15億円

- 12インチ再生ウェーハの生産能力拡充及び微細化対応
- 2020～2022年：15億円(2万枚)

### 12インチ再生ウェーハ生産能力（月産）

2019年 → 2021年 → 2022年  
**15万枚** → **17万枚** → **17万枚**

2020年度	2021年度	2022年度
2億円	13億円	—

## 中国

総投資額： 38億円

- 12インチ再生ウェーハ生産拠点の新設投資
- 第1期投資(2020～2022年)：38億円(5万枚)

### 12インチ再生ウェーハ生産能力（月産）

2019年 → 2021年 → 2022年  
**0万枚** → **0万枚** → **5万枚**

2020年度	2021年度	2022年度
5億円	—	33億円

第1期投資

# 設備投資計画：プライムウェーハ事業

- 8インチプライムウェーハの増産計画(5万枚/月)に加え、12インチプライムウェーハ量産化のための研究開発を進行中。

## 中国

総投資額： 140億円

- 8インチプライムウェーハの生産能力拡充
- 2020年9月 竣工式

### 8インチプライムウェーハ生産能力（月産）

2020年 → 2021年  
7万枚 → 12万枚

投資期間 2019年～2020年 2020年秋より順次稼働開始

2020年度	2021年度	2022年度
140億円	未定	未定

## 中国

テストライン投資額： 50億円

- 12インチプライムウェーハ量産化のための研究開発
- 1万枚のテストラインを経て、30万枚の量産体制を目指す

### 12インチプライムウェーハ生産能力（月産）

2020年 → 2021年 → 202X年  
0万枚 → 1万枚※ → 30万枚

2020年度	2021年度	2022年度
5億円	45億円	未定

※ 量産化研究開発のためのテストライン

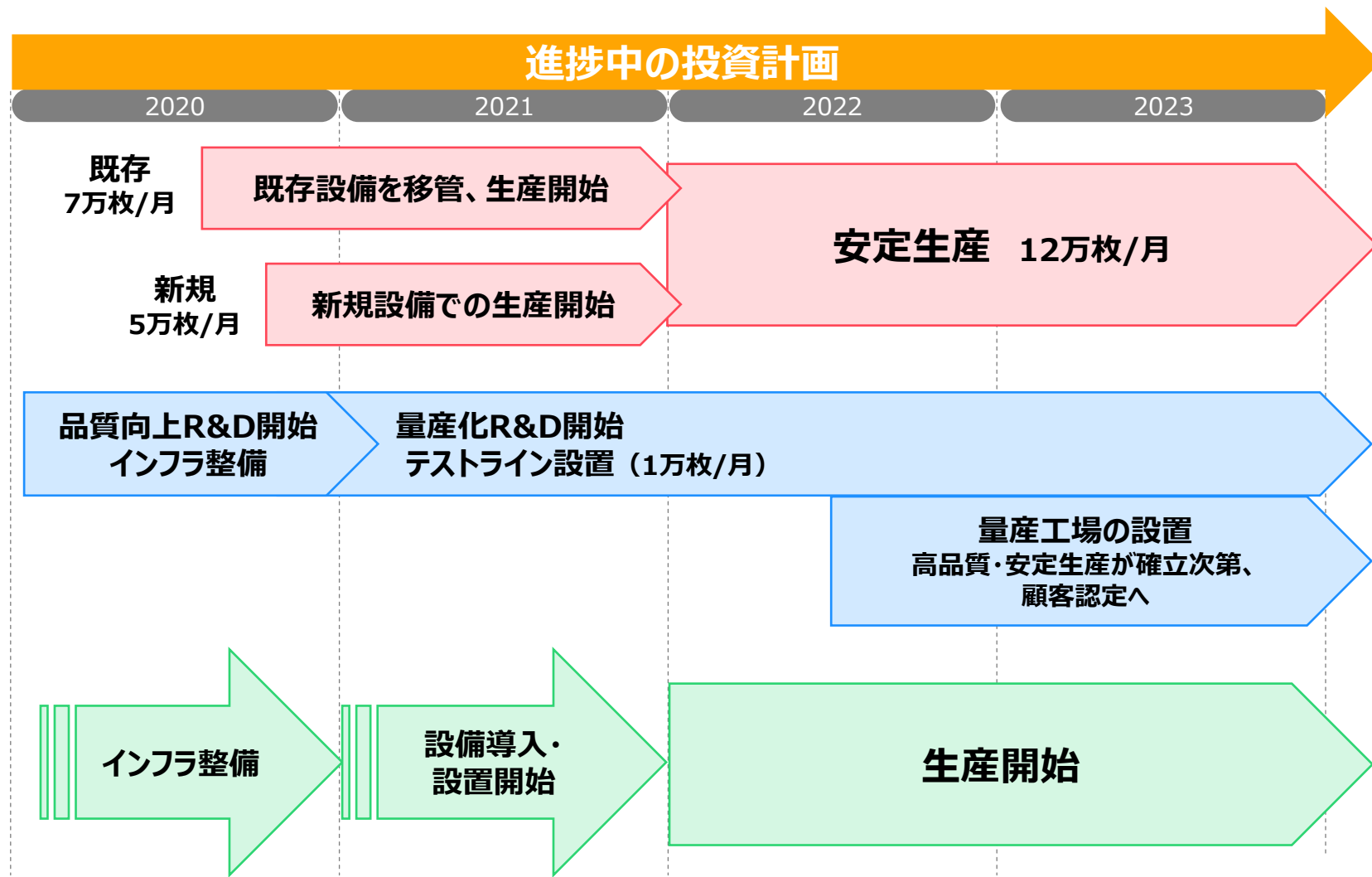
# 中国における投資計画の変更

- 半導体市場の成長に伴い、12インチプライムウェーハの需要が従来以上に高まると想定。
- 上記に対応し、中国における投資計画を一部変更（8インチプライムウェーハの増産計画を一部保留し、12インチウェーハ事業への早期進出を決定）。

	旧 投資計画	新 投資計画 ※2019年12月18日開示
事業環境	◆家電・自動車市場の成長に伴い、パワー半導体需要の伸長が見込まれる	◆半導体市場の成長に伴い、12インチウェーハの需要増が従来以上に見込まれる状況へ変化
投資戦略	◆8インチプライムウェーハでグローバル品質を実現した後、12インチウェーハ事業へ進出	◆8インチプライムウェーハの増産計画を一部見直し ◆12インチウェーハ事業への早期進出を決定
投資計画	◆8インチプライムウェーハ生産能力(月産) 2021年に22万枚 (既存7万枚+増強分15万枚)	◆8インチプライムウェーハ生産能力（月産） 2021年に12万枚 (既存7万枚+増強分5万枚) ◆12インチプライムウェーハ量産に向けた研究開発を開始 →テストライン（1万枚/月）を設置、高品質及び量産化実現を目指す ◆12インチウェーハ再生事業の中国生産拠点への投資

# 進捗中の中国投資計画（スケジュール）

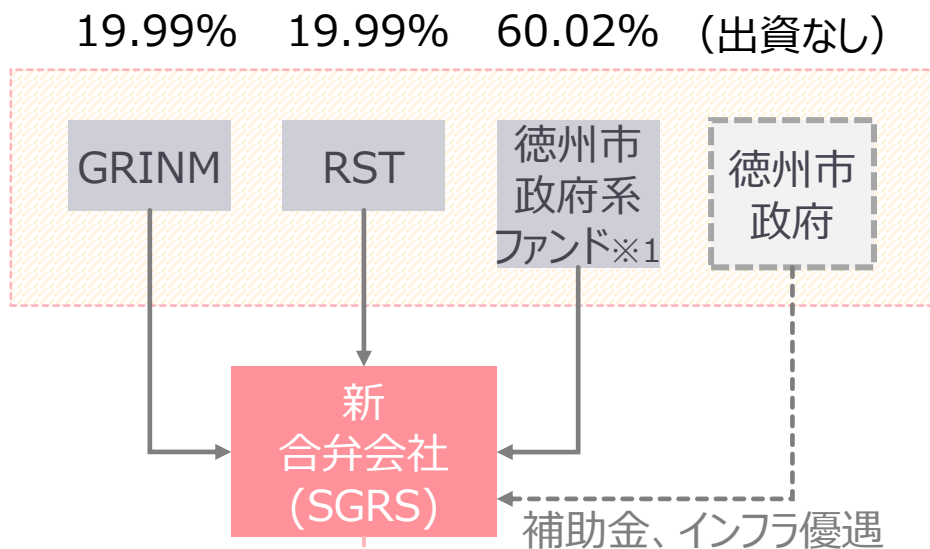
- 8インチの増産、12インチの量産化研究開発、ウェーハ再生事業の立上げを今年度より並行して実施。12インチは高品質化・安定生産を早期に目指す。



# 中国における12インチシリコンウェーハ事業スキーム

- 徳州市政府等と共同で新たな合併会社を2020年3月に設立。
- 12インチシリコンウェーハ事業へ参入も、当初の出資比率を押さえることで初期リスクを抑制。
- 1万枚/月のテストラインを経て、30万枚/月の量産体制を目指す。

## 合併会社の出資スキーム



## 合併契約

- ・ 合併契約は4者間で締結。
- ・ 出資は3者（GRINM、RST、徳州政府ファンド）
- ・ 徳州市政府はインフラ等のサポートを提供。

## 事業内容

- ・ 12インチプライムウェーハ事業(生産、販売、開発)
- ・ 12インチウェーハ再生事業※2

※1 徳州滙達半導体股権投資基金パートナー企業

※2 詳細はP25「中国におけるウェーハ再生事業への投資決定」をご参照ください。



# ウェーハ再生事業の新規需要：12インチ半導体新工場

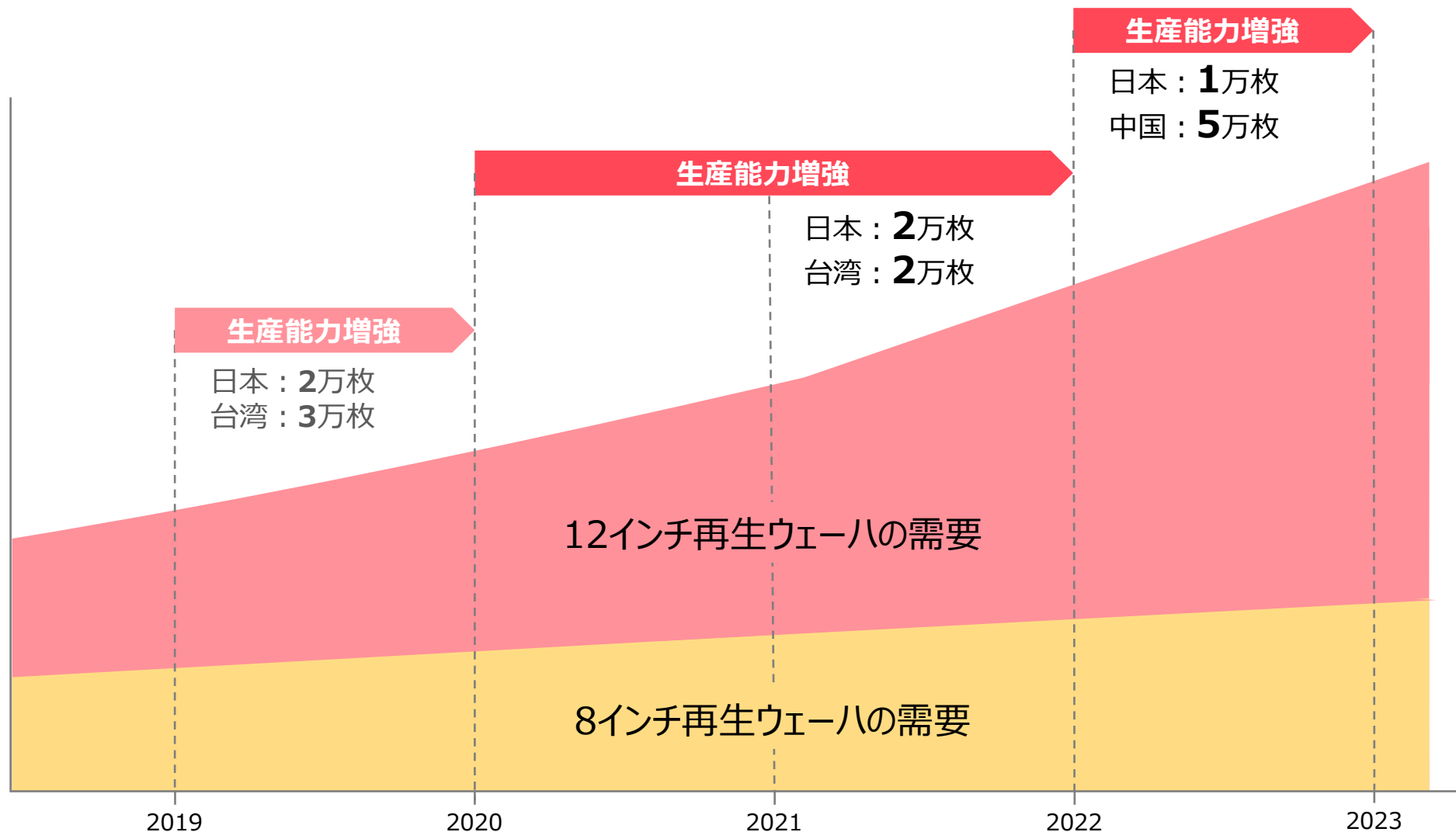
- 中欧米日等で自動車の電子化（自動車の情報化に加え、電気自動車、自動運転等）等による旺盛な半導体需要に対応した、12インチ半導体新工場が建設中。
- 日本、台湾及び中国への設備投資により、新たな再生ウェーハ需要へ対応。



注：RST調べ

# 再生ウェーハ需要の見通し：12インチ中心に拡大続く

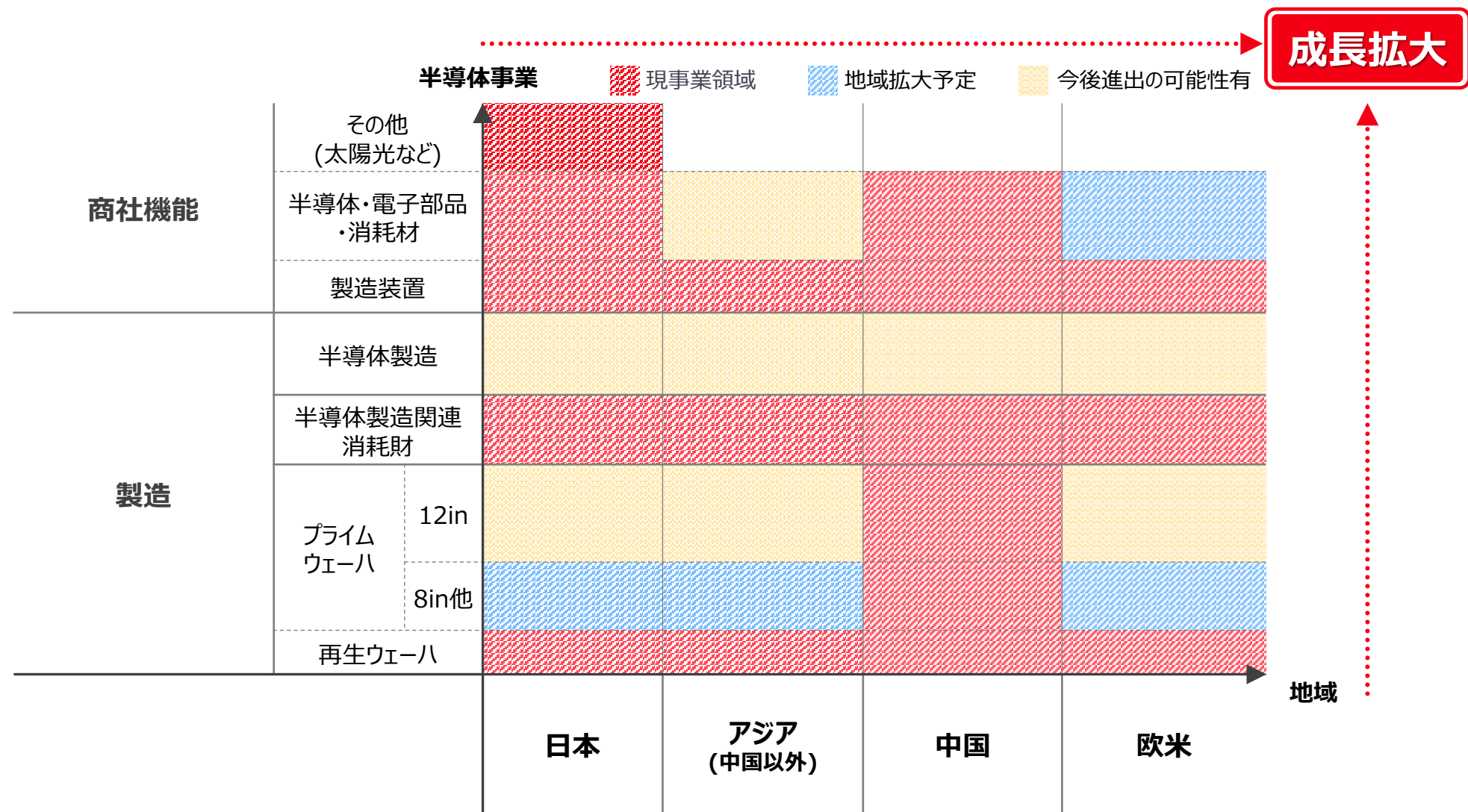
- 拡大する再生ウェーハ需要に対応し、2020～2022年に日本で3万枚、台湾で2万枚、中国で5万枚の能力増強を実施予定。



注：RST調べ

# RS Technologiesの目指す世界

- 一步一步、着実に事業領域および販売地域を広げていく。



# Appendix

---

# 代表取締役 方永義の強み

- 代表取締役社長である方永義が20年以上にわたって日本で培った知見と自身が持つネットワークを生かした全世界への販売力・人脈力・提携力・資金力が強み。
- 方永義の下にハイテクや金融など幅広い分野のプロフェッショナル人材が集結。



方永義は 前列中央 (2016年9月、東京証券取引所にて撮影)

## 方 永義 (ほう ながよし)

1970年生まれ 中国福建省出身  
城西国際大学院 修了

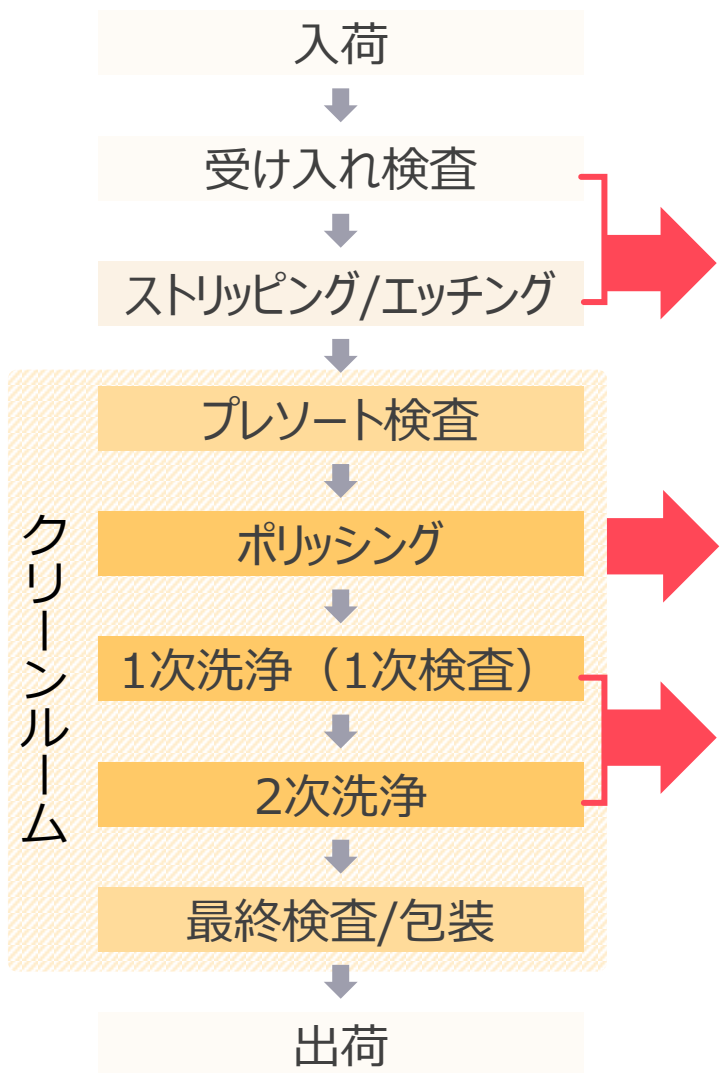
得意分野：  
M & A、業務提携 (過去10社を超えるM & Aを成功)

1998年 永輝商事設立  
2010年 当社設立社長就任 (現任)

大切にしている心：為せば成る

### 補足：

高校卒業後に来日。日本国内外で20以上の会社の投資経験。「半導体事業」の他、ファンドや貿易、ホテル、IT事業、農業等様々な業界の投資を経験。「日本のものづくりは世界一」との信条の元、それを世界に広めていくため、世界中を飛び回っている。



## 強み1

### すべての膜を剥離可能

- ケミカルによる除去の為、表面のダメージが最小限に

▶ 再生回数が多い ▶ よりコストダウンが可能

ラサ工業（化学）の特異技術を継承



表面に付いているキズや凹凸を研磨（ポリッシング）により平滑にする

## 強み2

### 金属不純物を除去

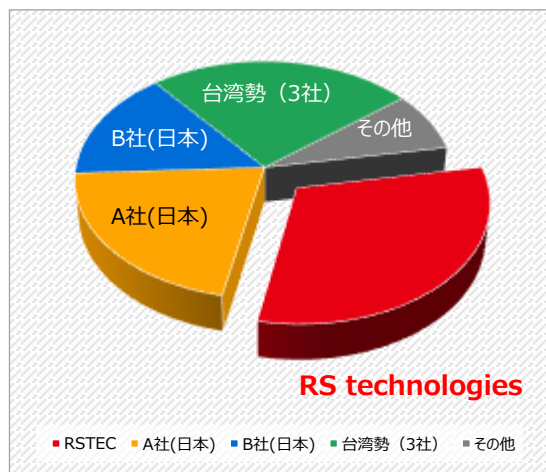
- ウェーハ表面の微細ゴミ・汚れを洗浄で取り除く
- + 金属不純物を除去 特に銅 (Cu) の除染除去に強み



# 再生ウェーハビジネス(2)

## 再生市場での当社のシェア拡大

### 12インチ再生市場における当社シェア



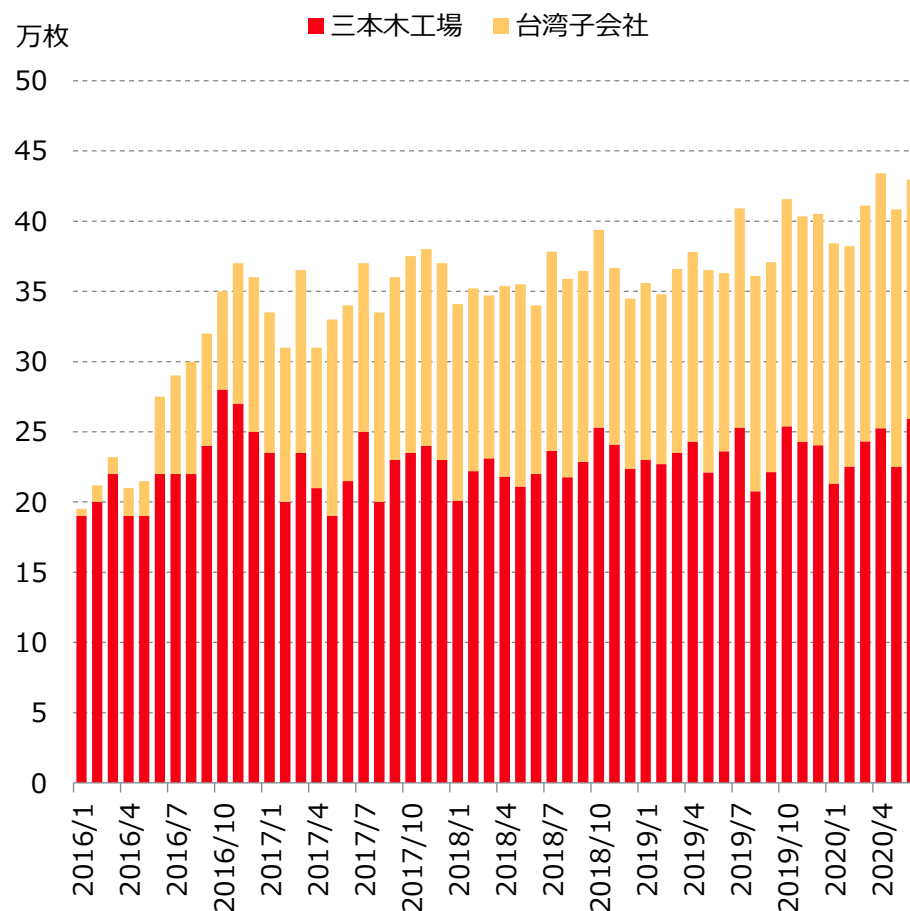
注：RST調べ

	2015年 上期	2015年 下期	2016年	2017年	2018年	2019年
当社グループ 生産能力	18万枚	24万枚	28万枚	30万枚	34万枚	40万枚
当社グループ シェア	19%	24%	29%	30%	31%	33%

注：RST調べ

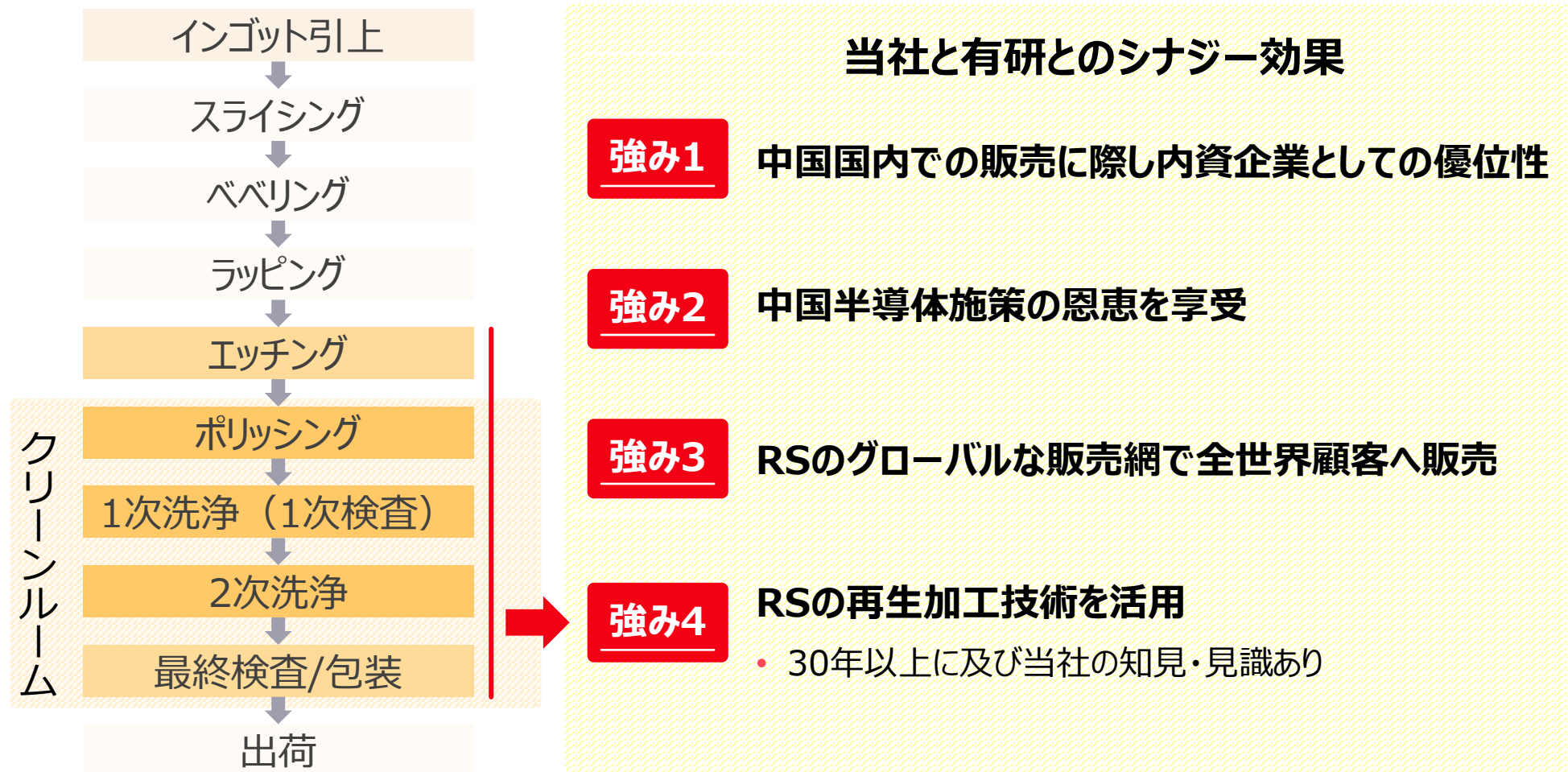
## 三本木工場と台湾子会社の出荷推移 (2016年-2020年)

### 三本木工場と台湾子会社の12インチウェーハ出荷枚数推移



# プライムウェーハビジネスに進出

- 中国中央政府直属企業の北京有色金属研究総院（現 有研科技集团有限公司）との合併会社を設立。内資企業（中国の国内企業）として半導体事業を推進





# 中国における当社合併相手について

- 1952年創立。**中国の非鉄金属分野で最大の国有研究機関。**
- 中国の企業数約1,300万社のうち、国有企業は30万社。  
その内、中央政府直属企業は88社であり、GRINMはその中の1社。
- 政府・産業・学問が一体化した研究機関で、中央政府の非鉄金属分野における方針は当該会社を通して発信される。
- 研究の成果物として、事業会社を設立。現在、その数は34社にも及ぶ。
- 当社との合併会社である北京有研RS半導体科技有限公司（BGRS）の傘下に入るGRITEKは2001年事業会社第1号として設立された。



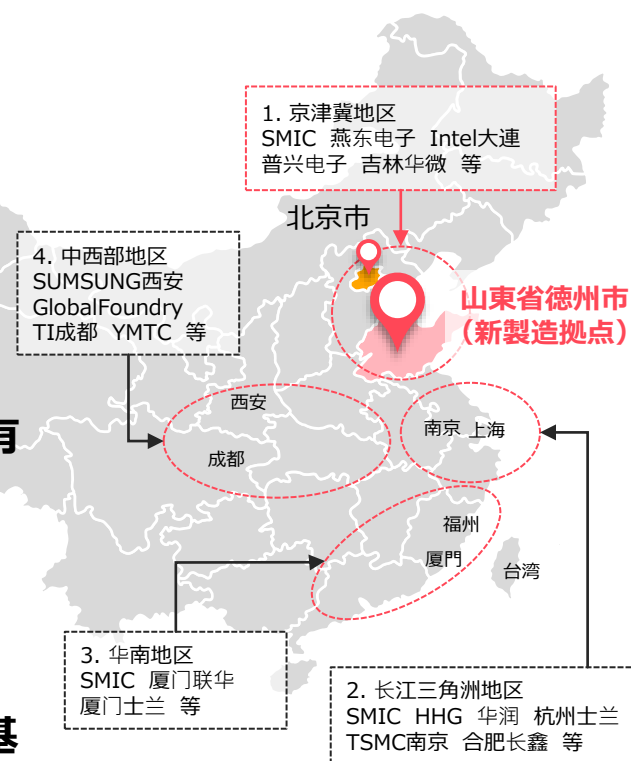
# 山東省徳州市と提携 子会社を設立し工場建設へ

## 提携の背景

1. 周辺に世界的な主要半導体メーカーの工場誘致が進み、半導体メーカーの集積地に近い好立地であること（右図参照）
2. 水道光熱費の低減や安価な社宅の提供といった福利厚生面が充実していること
3. 理工系大学が近隣にあり、優秀な人材獲得の面で優位性があること
4. 最大約50万㎡（当初は20万㎡）まで拡張可能な敷地により今後の中国事業推進に十分対応できる用地が確保されていること

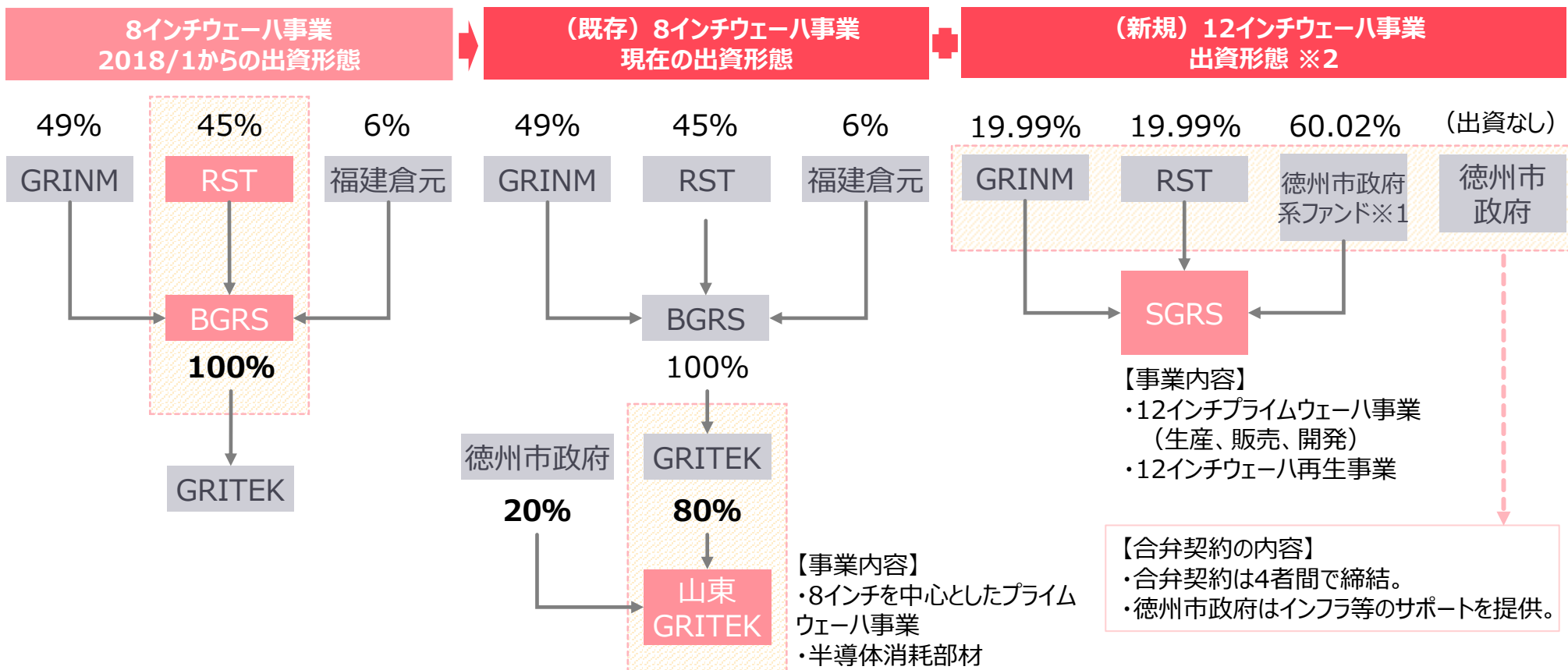
## 経緯及び現状

1. 2018年8月23日に8インチウェーハビジネスを手掛ける新会社（山東有研半導体材料有限公司）設立
2. 2019年3月19日に徳州市の新工場起工式を実施
3. 2020年9月に竣工式の予定
4. 2019年12月に有研科技集团有限公司、徳州滙達半導体股権投資基金パートナー企業及び山東省徳州市政府と四者間で合併契約を締結
5. 2020年3月に12インチウェーハビジネスを手掛ける新合併会社（山東有研RS半導体材料有限公司）設立



# 中国事業への出資スキーム

- 新たに12インチウェーハ事業を手掛けるため、GRINM、徳州市政府等と共同で新たに合併会社（山東有研RS半導体材料有限公司：SGRS）を設立。当初の出資比率を押さえることにより、初期リスクを抑制。
- 新合併会社で手掛けるプライムウェーハ事業では、1万枚/月のテストラインを経て30万枚/月の量産体制を目指す。また、ウェーハ再生事業では、第1期投資として5万枚/月の稼働を目指す。



※1 徳州滙達半導体股権投資基金パートナー企業

※2 詳細は、2019年12月18日付け開示資料「中国における投資計画の一部変更に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、出資比率は最終的な出資比率であり、出資契約に基づき実施いたします。

# 業績推移

(百万円)	2013年12月期	2014年12月期	2015年12月期	2016年12月期	2017年12月期	2018年12月期	2019年12月期
売上高	3,475	4,566	5,285	8,864	10,932	25,478	24,501
売上総利益	1,173	1,820	1,852	2,544	4,252	8,366	7,940
販管費	471	654	791	958	1,269	2,615	3,223
営業利益	703	1,166	1,061	1,585	2,982	5,751	4,717
経常利益	819	1,247	770	1,444	3,159	6,141	5,416
当期利益 ※	525	664	143	861	2,113	3,620	3,035
配当金 (円)	-	-	-	10	5	10	15
設備投資	338	3,503	4,665	209	95	1,328	4,809
減価償却 費	87	103	326	682	714	1,298	1,814
研究開発 費	1	6	11	85	183	501	449
従業員数 (正社員) (人)	152	191	265	373	434	1,159	1,277

※親会社株主に帰属する当期純利益

# 主要財務諸表

(百万円)	2013年12月期	2014年12月期	2015年12月期	2016年12月期	2017年12月期	2018年12月期	2019年12月期
<b>資産の部</b>							
流動資産	1,811	2,759	3,732	5,348	7,388	26,074	32,760
現金及び預金	397	1,190	1,842	1,952	3,243	14,879	22,156
受取手形及び売掛金	681	696	795	2,531	2,916	6,958	6,047
商品及び製品	396	376	361	348	446	1,343	1,713
固定資産	508	4,064	5,845	5,333	4,843	10,516	15,873
有形固定資産	461	3,918	5,667	5,152	4,674	8,963	14,635
無形固定資産	19	15	29	23	19	1,099	732
投資その他資産	27	130	148	158	149	453	506
<b>資産合計</b>	<b>2,320</b>	<b>6,823</b>	<b>9,577</b>	<b>10,682</b>	<b>12,231</b>	<b>36,591</b>	<b>48,634</b>
<b>負債の部</b>							
流動負債	960	2,292	2,295	2,993	3,370	4,979	7,252
支払手形及び買掛金	138	151	186	283	398	1,554	1,614
有利子負債	136	827	1,216	1,538	1,276	976	1,730
固定負債	709	2,934	4,798	4,317	3,335	2,474	5,400
長期借入金	615	2,925	4,079	3,620	2,767	1,848	2,232
<b>負債合計</b>	<b>1,670</b>	<b>5,227</b>	<b>7,093</b>	<b>7,310</b>	<b>6,705</b>	<b>7,453</b>	<b>12,652</b>
<b>純資産の部</b>							
純資産	649	1,596	2,483	3,371	5,526	29,137	35,981
<b>負債・純資産合計</b>	<b>2,320</b>	<b>6,823</b>	<b>9,577</b>	<b>10,682</b>	<b>12,231</b>	<b>36,591</b>	<b>48,634</b>

\*2013年12月期は単独決算となっております

# セグメント別 業績推移

(百万円)	2013年 12月期	2014年 12月期	2015年 12月期	2016年 12月期	2017年 12月期	2018年 12月期	2019年 12月期
<b>売上高</b>							
ウェーハ再生事業	3,347	4,414	5,107	7,144	9,487	10,973	10,776
プライムウェーハ製造販売事業	—	—	—	—	—	11,918	10,058
半導体生産設備の買収・販売	—	—	—	1,654	1,393	2,918	4,047
その他、調整額	127	151	178	66	52	△331	△380
<b>セグメント利益</b>							
ウェーハ再生事業	916	1,444	1,377	1,765	3,396	4,011	4,081
プライムウェーハ製造販売事業	—	—	—	—	—	2,048	1,503
半導体生産設備の買収・販売	—	—	—	230	130	366	171
その他、調整額	△214	△278	△316	△409	△543	△675	△1,038
<b>セグメント資産</b>							
ウェーハ再生事業	1,337	5,040	6,987	5,657	8,120	9,150	10,336
プライムウェーハ製造販売事業	—	—	—	—	—	21,313	29,311
半導体生産設備の買収・販売	—	—	—	1,137	1,305	1,939	3,179
その他、調整額	982	1,783	2,589	3,887	2,805	4,315	5,806

\*2015年、2016年、2017年12月期の決算数値は2019年3月5日にリリースした訂正後の数値となっております

当該資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営を取りまく様々な環境の変化により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報の中には「見通し情報」が含まれております。これらの情報は、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実際には異なる結果となる不確実性を含んでおります。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。